

アソカ講話042

テーマ「活学・・学びを活かす道とは」

読書会で参加者の感想に次のような言葉があった。

「今日の仕事は大変だと思い仕事に入った。どうしようかと不安になったが、遠くを見すぎて不安になるのではなく、目の前の一つ一つ片づけていけばいいのだという言葉を思い出し、そう思うことで不安が取れ仕事に臨んだ。その言葉を実践した結果、時間は少しオーバーしたがやることができた」と。

「どんなの困難に見える仕事も、目も前の小さな仕事を一つ一つ片づけることから始まる。一つ拾えば一つきれいになる」。言葉だけだと知識にしか過ぎないが、知識として学んだことを実践の場で活かすことができた時、初めてそれが「智慧」に変わり、身に付けたということになる。実践することで知識が実用的な智慧に昇華するのである。

このプロセスこそ、学びの本義であり、最大の喜びである。是非、多くの方に学びの醍醐味を味わって頂きたいと思う。私達が読書会で学ぶ目的もここにある。最終的には実践の場で活かす、活かすことで体験として幸せを実感することができる。

学びは活かして初めて本物になる。その人の人格になる。